

PR-20-003

各位

2020年9月9日

横浜市のIoT推進ラボ「I・TOP 横浜ラボ」の実証実験公募に 丸文のIoTを活用した空き部屋有効利用実験が採択されました

エレクトロニクス商社の丸文株式会社（社長：飯野亨、本社：東京都中央区、資本金：62億1,450万円、以下丸文）は、地方版IoT推進ラボの一つであるI・TOP横浜ラボ「新技術による快適な住まいづくり」に関するプロジェクト創出支援に応募し、横浜市より実証実験候補に採択されましたのでお知らせいたします。

今回丸文では、横浜市住宅供給公社の集合住宅を実証フィールドとして集合住宅を活用した新たなIoT製品・IoTサービスの実証実験を行います。丸文が販売するLoRaWAN対応センサーとIoT構築プラットフォーム“VANTIQ”を活用し、既存の集合住宅に簡単にIoTシステムを構築することにより、快適な住まいづくりを提供する新たなIoT製品・サービスの検証を行ってまいります。

*丸文が行う実証実験の概要

実証実験名：入居者限定の空き部屋の時間貸しサービス

実証内容：空き部屋へ機器を設置し、入居者向け貸し出し時のデータ取得等を実施

実験概要：集合住宅の空き部屋を入居者に時間貸しすることを目的とし、各種センサーを配置したIoTシステムにて利用状況を収集・管理し、空き部屋を安全に有効活用する仕組みの構築・運用実験です。あらかじめ設けた「空き部屋利用時の使用ルール」に沿っているかをリアルタイム管理し、利用状況によって利用者にアラート通知を送るものです。（実験詳細は別紙参照）

使用ルールを設けて貸し出すことで、貸す側も借りる側も安心して利活用できることを実現します。

また、コロナ禍でのテレワークの拡大やコロナウイルス感染症の家庭内感染の予防として、「空き部屋をテレワーク執務スペースとして利用したい」という声や、「空き部屋を活用したいが管理運営が大変なのは困る」などのニーズにお応えできるシステムです。

*イベントドリブン型IoT構築プラットフォーム“VANTIQ”

VANTIQはアジャイル思想に基づいた開発プラットフォームで、IoTシステムの設定や仕様変更がとても簡単かつスピーディーに行えます。センサーデバイスの追加削除やデータ処理フロー変更が、PC画面上でリアルタイムに簡単に行うことが可能で、プログラムの高度な知識は不要です。

IoT構築プラットフォーム“VANTIQ”の詳細は

<https://www.marubun.co.jp/product/semicon/a7ijkd000000fm3h.html> をご覧ください。

*I・TOP 横浜 (IoT オープンイノベーショントナース横浜)

IoT 等を活用したビジネスに向けた、交流、連携、プロジェクトの推進、人材育成を目的として横浜市が立ち上げた地方版 IoT 推進ラボ。新ビジネスの創出や社会課題の解決、中小企業の生産性向上、チャレンジ支援を行っています。

I・TOP 横浜の詳細は <https://itop.yokohama/summary/> をご覧ください。

*I・TOP 横浜募集テーマ「新技術による快適な住まいづくり」

横浜市住宅供給公社の物件をフィールドとした、新型コロナウイルスの感染対策となる「新しい生活様式」への対応や、快適な住まいづくりを提供する新たな IoT 製品・サービスの提案を公募するものです。横浜市では採用した提案の実証実験を通じて得られた成果によって「イノベーション都市・横浜」をさらに推し進めるとともに、郊外住宅地・団地の再生の取組みにも活かしていきます。

横浜市による I・TOP 横浜公募結果の詳細は <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/keizai/2020/0903itoplal.html> をご覧ください。

<丸文株式会社について>

本 社 : 東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1

設 立 : 1947 年

代表者 : 代表取締役社長 飯野亨

従業員 : 1,324 名 (連結 : 2020 年 3 月 31 日現在)

資本金 : 62 億 1,450 万円

売上高 : 2,875 億円 (2019 年度連結)

事業内容 : 集積回路を中心とした半導体、電子応用機器など、国内外の先端エレクトロニクス製品を販売する
商社。東京証券取引所市場第一部に上場。(コード番号 : 7537)

丸文株式会社の詳細は、<https://www.marubun.co.jp/> をご覧ください。

実証実験内容に関するお問い合わせ先

丸文株式会社 アルテミスカンパニー 担当 : 本山・糸永

TEL: 03-3639-9888 FAX: 03-3661-7471

E-mail: vantiq@marubun.co.jp

このニュースリリースに関するお問い合わせ先

丸文株式会社 経営企画部 担当 : 杉村

TEL: 03-3639-3010 FAX: 03-5644-7693

E-mail: koho@marubun.co.jp

<別紙 実験詳細>

機器設置：空き部屋に LoRaWAN 対応のボタンセンサー、ドア開閉センサー、温湿度センサーなどのセンサーデバイスを設置します。ビデオカメラや画像センサーは一切使用しないため、入居者のプライバシーは守られます。利用者には VANTIQ から通知を受け取るためのアプリの入ったモバイル端末を貸し出します。

データ収集：部屋に設置したセンサーからの情報は、非常に小電力で通信エリアの広いローカルネットワーク“LoRaWAN”を通じて逐次 VANTIQ クラウドに送られます。

データ処理：VANTIQ クラウドでは、非同期に入ってくる様々なセンサーデータをあらかじめ設定したフローに沿ってリアルタイムに処理し、利用者がルールを逸脱した利用をしていないかを判断します。

アラート通知：VANTIQ はあらかじめ決められたフローにより利用状況がルールから外れていると判断すると、モバイル端末の VANTIQ モバイルアプリと連携し、プッシュ通知で利用者に対してアラートを行います。アラートを受けた利用者は、通知内容をもとに使用ルールに沿った利用状況に改善します。

例 1) エアコンがフル稼働しているのにドアセンサーは“開”でかつ温度センサーが“30℃” → 利用者に「ドアが開いています」とアラート連絡を送り、利用者はドアを閉めたりエアコンを止めたりなどの対応をします。

例 2) 貸し出し利用時間が過ぎているのに各種センサーに反応がある → 利用者に「利用時間終了」とアラート連絡を送り、退室を促します。

